

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 -)

事業所番号	0690400080		
法人名	特定非営利活動法人あすなろの会		
事業所名	グループホームあすなろ窪田		
所在地	米沢市窪田町窪田1421-1		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 24 日	開設年月日	平成 21年 6 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活の中で出来る事を尊重し、一人一人に合わせた役割を持てるよう関わりを持ち、生きがいや楽しみにつながるよう支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3年 3月 17日	評価結果決定日	令和 3年 4月 1日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「今までの生活を続けられるように、まわりにあたたかく見守られながら、自分でも何かしてあげたい。」の理念を掲げ、職員は利用者と同じく時間をかけてコミュニケーションを図り思いを汲み取って笑顔に繋げ、それぞれの居場所を見つけられるように取り組んでいます。盛り付けの得意な利用者が持っている力を発揮し職員も教わる姿があり、周りの利用者にも良い影響を与え前向きな表情で生き生きとした生活を送っています。家族や地域から見守られ、住み慣れた地域でこれまでの生活を続け、理念にある「自分でも何かしてあげたい」を利用者も職員も同じ気持ちで支え合えるよう努めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念については意義に基づき作成している。全員が理念についての理解をしておるが実践までは出ていないと思われる。	家庭的な雰囲気を大事に周囲から見守られながら、その人らしく暮らせるようにと考え開設当時に皆で作上げ、ミーティングで振り返りの機会もある。利用者のペースに合わせて時間をかけてコミュニケーションを取っている。	理念は事業所の根幹であることの重要性を職員全員で認識し、実践まで繋がるよう今後の取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りや運営推進会議の際、地域の方に参加していただいている。	例年は地域からの避難訓練協力や事業所開催の夏祭り・秋祭りなどで交流を図っていたが、今年度は困難な状況になっている。周辺への散歩や郵便局に手紙を出しに行き、挨拶をして笑顔が見られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	支援方法や実践状況は運営推進会議にてお話しさせていただいているがコロナ禍において本年は話す場がない状況である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し取り組みについて報告させていただいている。今年度は書面にて報告させていただいている。	コロナ禍の影響で書面での会議とし、利用状況や行事・事故、ヒヤリハット・研修報告を行い、メンバーからの意見・要望には窓口を設けている。今回意見はないが、会議は外部から気づきを得る機会ととらえ、地域に開かれた事業所を目指している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護給付を受けている方もおる為、福祉課担当の方と密に連絡・相談をさせていただいている。	市の福祉課からの案内やコロナ禍に関する情報はメールで受け取り、消毒液の配布も受けている。生活保護の方もいることから共有を図り、相談などでアドバイスをもらい日頃から良好な関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	当事業においては、身体拘束に当たる行為は行っておらず。また、会議において廃止委員会を2か月に1度開催し、その内容を職員に傳達し理解を深めている。	「身体拘束廃止委員会」を法人の管理者会議と併せて開催し、毎月のミーティングで全員が共有して拘束をしないケアに取り組んでいる。言葉の拘束などについてはリストに基づいてチェックを行い、外出したがる利用者の行動背景を話し合い、落ち着いて暮らせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングにて勉強会を開催し、理解を深めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて勉強会を開催し、理解を深めている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には十分な説明を行っている。その場で理解出来ない事があった際はいつでも説明の対応が出来るようにしてある。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にて要望をお聞きし添えるよう努力しております。	年に一度の家族アンケート調査から身だしなみの要望に応え理容店から来訪してもらっている。あすなる通信に健康状態や行事等の写真と担当がコメントを記載した「近況報告」を同封し生活の様子を伝え安心に繋げている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにて職員の意見を話す機会を設けています。効率よく仕事が出来るよう反映させています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の能力や質に合わせて給与に反映されている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部及び外部研修の積極的な参加を促している。	内部研修ではケアマネジャーや看護師が講師になりスキルアップを図っている。年間の個人目標を立て6ヶ月ごとに上司と面談を行い、達成度を確認し助言をもらい意欲向上に繋げている。資格取得に向けては勤務調整や費用の助成もあり、人材育成に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	置賜GH協議会に参加しているが、本年は会合に参加できておらず。	山形県グループホーム連絡協議会へ加入しているが、今年度の参加は自粛している。法人内4事業所の管理者同士がコロナ禍での対応や利用者への関わり方等の情報交換を行い、ケアの質向上を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前にアセスメントして、職員全員に周知している。日常生活の中でコミュニケーションで困っていること、不安な事などに耳を傾けながら安心を確保するため努力しています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所にあたって家族の心配、困っていること、不安な事、要望を聞き取り、不安を解消できるよう説明をし、納得していただけるよう対応しています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談の段階でその方に必要なサービスか見極めて判断しています。その他のサービスが必要な場合についても本人の意向に従い受けられるように支援しています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることの維持を図り、本人に役割を持ってもらい生活を送れるように支援しているものの重度化している利用者の対応について少しでも時間をかけ寄り添って対応する様努力しています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告での報告、新聞にて写真での様子報告。来所時の報告、必要に応じて電話での連絡など家族とは密に連絡を取り合っ問題があれば一緒に話し合い、問題を解決していきます。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為、外出を控えて頂いていますので、電話連絡、はがきにて関係継続をお願いして頂いております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性など考慮し話しやすい食席にしたり、無理のない会話ができる様話題を提供している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方への面会や家族への報告、家族が遠方においては入院先や入所先へ出向き様子をお伝えしたりしています。また、介護者の相談に乗っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族やご本人から思いや意向等、聞き取りをしたり、日常生活のコミュニケーションの中で思いを把握する様に努めている。	日頃利用者とは時間をかけてコミュニケーションをとり思いを把握し、新たな気づきが得られるよう努めている。盛り付けの仕事に携わっていた利用者から職員も教わりながら手伝ってもらい、その方の生き活きとした表情が見られている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使ってアセスメントを進めている。生活歴に関しては家族の聞き取りをして、職員間で共有出来ている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回のミーティング等により職員間で共有して、把握に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランを基に各担当者が目標を立て、目標を達成できるように取り組みしている。また3か月に一度モニタリングを実施して検討も出来ている。変更時は家族との話し合いのもと、ケアプランに反映出来ている。	本人や家族等の意向を大切にしながら、課題を踏まえ出来ることに目を向け目標を立てている。気づきも反映させながら3ヶ月毎に効果の観察を行い、安心して穏やかな暮らしが出来るように作成し、身体状況に変化がある場合は家族等の同意を得て見直している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレット端末にて、支援経過の名目で利用者様のケアでの気づきや工夫を記録出来ている。またそれを職員間で共有出来ている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>必要な方には主治医の相談の基、家族の意向を聞いてから認知症デイケアの利用を支援している。</p>	/	
29	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>個々の主治医との情報交換や、他の病院を受診した際の受診状況報告書を作成して、医療機関との連携を図っている。</p>	<p>入居時にほとんどの利用者が月に1度来訪する往診医に変更を希望している。往診前日に既定の受診状況報告書をファックスで送付し円滑に受診できるよう取り組んでいる。受診結果は家族等に毎月の「近況報告」で報告し、職員は申し送りで共有している。</p>	
30		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>往診時や受診時等に、看護師への申し送り書を作成して、看護師への報告や相談が出来ている。また、看護師からのアドバイスも主治医等へも報告出来ている。</p>	/	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者1人1人の介護サマリーを作成して、救急搬送時等に有効に使っている。</p>	/	
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入所時に重度化した時の意向の確認をしている。また、家族や利用者様の意向が変わった際は、その都度話し合いにより主治医の先生の意見を参考に進めることが出来ている。</p>	<p>入居時に利用者と家族等に看取りはしていないことや、予め介護認定が要介護3になった時点で他施設利用などの検討を説明し理解を得ている。食事を口から摂れなくなるなど重度化した場合は医師に相談し、家族等と話し合い意向を確認して、次の段階で安心して生活ができるよう支援している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを含めた救急救命の講習は職員が積極的に受けるように努めている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を実施している。その中の一回は必ず消防職員の立ち合いの基行うように努めている。	感染防止のため地域住民の参加は見送り、12月に消防署立ち合いの下、火災を想定した総合訓練を行い、講評から課題が明らかとなり次回の反映材料としている。避難経路や市指定避難場所を確認して非常時の持ち出し物も準備し、万が一に備えている。	近年の自然災害の多様化を考慮し水害などの訓練やシミュレーションを、また経験の浅い職員も多い事から訓練を繰り返し行い、迅速・確実な避難に繋げるよう期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等で、職員間で利用者様の声がけを丁寧に出来る様周知して出来るように努めている。	生活歴や普段の会話の中から得意な事を引き出し、時間がかかっても出来ることをしてもらい、出来ないことも見守りの中挑戦してもらっている。料理の盛り付けなどの特技を職員に教えることで、お礼の言葉に役に立つ喜びを味わっている。		
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の話に耳を傾け、なるべく利用者様が自己決定出来る様努めている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿って出来ているかは不安ではあるが、共用スペースで皆さんと楽しく過ごせるように努めている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服のアドバイスをし、身だしなみの支援が出来ている。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の手伝いや後片付け等は出来る方は一緒に行うことが出来ている。	日々の会話から食べたい物を聞き出し、季節毎の郷土食や行事食も大事にメニューに取り入れ、時にはラーメンなどの出前を利用して喜ばれている。一人ひとりが使い慣れた食器を持ち込み、自宅と違和感なく食事が出来るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	10時と15時にお茶の時間を設けているが、それ以外でも利用者様の体調を考慮して、水分補給が出来る。また、利用者様に合った食形態で栄養のある食事を提供出来ている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを実施して、利用者様に合った介助の仕方で行っている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	自力で又は介助のもと、なるべくトイレで排泄が出来るように支援が出来ている。	利用者のしぐさからサインを見逃さず適時に誘導し、ズボンの上げ下げが難しい方は着脱トレーニングも行い、トイレでの排泄を大事にしている。一人ひとりの排泄状況を把握し、便秘気味の方は食物繊維摂取などで排便コントロールに取り組んでいる。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼らず、お茶の時間にイーージーファイバー等の食物繊維を取ってもらい、便秘の予防に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一般浴での入浴ですが、車椅子で入浴が困難な方でも2名対応にて安心して入浴が出来るように支援している。	入浴日は3日に1度以上を目安に、柚子など季節の香りや入浴剤で変化を楽しむ日を設け喜んでもらっている。身体状況に合わせて二人介助や健康観察をしながら、普段聞けない事も話題となり貴重な時間となっている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の調子に合わせて、居室で臥床してもらったりしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬の効果が分かるように、自分たちで利用者様の服用薬品書を作成して、理解に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵やミュージックケアや音楽鑑賞、計算問題等、利用者様一人一人に合わせた楽しみ事を見つけ、気分転換を図っている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日を選び、ドライブや買い物で外出出来ている。また、晴れの日には戸外で日光浴をしている。	感染防止のため車窓から紅葉などを眺めドライブで気分転換を図り、帰った後は睡眠や排泄などの生活リズムが安定し好影響を与えている。また歩いて近くの郵便局まで手紙を出しに行ったり、事業所前駐車場で日常的に外気に触れ開放感を味わっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が可能な利用者様には、お小遣い程度の金銭を所持してもらっている。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される利用者様には電話の取り次ぎや手紙の投函を行ってもらっている。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には安全性を確保し、清潔さを重視し、不快や混乱をまねくような事がない様、配慮している。	日中はホールで過ごす方が多くリハビリを兼ねたゲームや趣味の縫物をしたり、ミュージックケア(音楽療法)の日は皆で楽しみ、気分に合わせて自由に暮らしている。また気が合う同士の配席を心掛け和やかに活動ができるように配慮している。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士がくつろげるよう、3~4名座れるソファを設置している。また一人掛けの椅子を合わせる事により共用空間を作っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53	(20)	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者様の好きなぬいぐるみや置物等を持ってきて頂き、ご自分の望む様な居室づくりを行っている。</p>	<p>使い慣れた整理タンスなどの家具や思い入れのあるぬいぐるみ・家族写真を持ち込んでいる。身体状況に合わせた配置をして落ち着いて暮らせるように、時には居室で自由に一人の時間を過ごすこともあり、居心地良い空間となっている。</p>		
54		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>手すりの設置やバリアフリー等、安全な環境づくりに配慮している。</p>			